

**授業概要**

皆さんは哲学と聞いて、何を思い浮かべますか。何やら難しく役に立たない議論をしているように思われるのではないのでしょうか。

フランスの高校生は最終年度に必修科目として哲学を学びます。そしてそれは、哲学のいわゆる「教養」を身につけるためではありません。一般的に通用する哲学的思考力を身につけることが目的なのです。つまり、哲学を学ぶことを通じて、単なる知識やお題目（誰々がああ言った、こう言った…）を超えて、文章を的確に読み、論理的に考え、考えたことを表明するという、一生もののスキルを身につけることができます。「自由」や「死」といった哲学的なテーマは、そのための格好の素材となります。

この授業では、哲学というフィールドを横切るプレイヤーは皆さん自身なのです。

**授業計画**

第 1 回	哲学は何の役に立つのか
第 2 回	哲学的な議論の仕方
第 3 回	なぜ悪が存在するのか
第 4 回	死後の生命はあるか
第 5 回	「わたし」とは何か
第 6 回	心と体の関係はどうなっているのか
第 7 回	機械は思考できるか
第 8 回	レポートの書き方（1）
第 9 回	わたしたちは自由なのか①
第 10 回	わたしたちは自由なのか②
第 11 回	外の世界についてどのように知ることができるのか
第 12 回	レポートの書き方（2）
第 13 回	倫理は客観性をもつか
第 14 回	なぜ道徳的であるべきなのか
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	筆記試験（教場レポート形式）

**到達目標**

- 哲学的思考の「型」を身につけ、自ら考える力を養う。
- 論理的に文章を書く力を養う。
- 哲学の基本的問題に馴染む。

**履修上の注意**

- 初心者から上級者まで広く受講できる授業です。高校倫理を履修していたかどうかは全く関係ありません。
- 授業内容についての質問は、基本的に、毎回授業前後に受け付けます。疑問に思う、あるいは「分からない」と思うのは、悪いことでは全くなく、むしろ良いことですので、積極的な質問を歓迎します。
- 各回の内容は、進捗や理解度に応じて変更する可能性があります。

**予習・復習**

- 毎回の復習は必須です。復習の仕方については、授業でガイダンスします。
- 予習は必須ではありませんが、関心や余力のある人は、教科書の該当項目を予め読んでもらって構いません。

**評価方法**

- 平常点（出席点およびリアクションペーパーの内容の評価）50%
- 筆記試験（教場レポート形式、その場で提示された課題について論じる。）50%

**テキスト**

- 教科書名：哲学のアポリア 批判的に思考する
- 著者名：J. レイチェルズ・S. レイチェルズ著
- 出版社名：晃洋書房
- 出版年（ISBN）：2015年，9784771025110

その他、プリント等を配布することもあります。

- 参考書：『バカロレア幸福論 フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン』坂本尚志著、星海社新書、2018年。（ISBN：978-4065112328）